

脳梗塞・心筋梗塞のリスクを知る

脳梗塞・心筋梗塞は“予防” できることをご存知ですか？

動脈硬化が原因とされる心疾患、脳血管疾患は、日本人の死因ではガンと同水準、患者数では圧倒的に多いことがわかっています。

働き盛りを突然襲う脳梗塞、心筋梗塞

記憶に新しいところでは、30代のサッカー選手の急死、30代の女性アナウンサーや40代の女優の入院など、若年化も進んでいます。特に脳梗塞は、日本人の寝たきりの原因第一位で、一命を取り留めても重い後遺症が残ります。



採血のみで脳梗塞・心筋梗塞のリスクがわかる 新しい検査「LOX-index(ロックス・インデックス)」



報告書イメージ

LOX-index値が高いと脳梗塞・心筋梗塞の発症率が高くなることが、過去10年以上の国内での研究でわかっています。

LOX-indexは採血のみ、約10分で受けることができる簡単な検査です。結果通知は、Lox-index検査のみ受診の方は受診から2週間以内に、生活習慣病等の検査を併せて受診頂いた方はすべての検査結果と一緒に、Lox-index検査結果とその解説及び改善指導をまとめた詳細な報告書をご本人にお返しします。

特に、

- ✓ 脳梗塞、心筋梗塞の発症が不安な方
- ✓ 高血圧、脂質異常症、糖尿病の既往歴がある方
- ✓ 40歳以上の方
- ✓ ご家族に脳梗塞・心筋梗塞に罹った人が
いらっしゃる方 には受診をお勧めしています。



LOX-index -脳梗塞・心筋梗塞発症リスク検査- よくあるご質問(FAQ)

① LOX-indexとは？

動脈硬化に関連する変性LDLとLOX-1という2つの物質を調べることで、動脈硬化の進行具合から将来の脳梗塞・心筋梗塞のリスクを判定する血液検査です。動脈硬化は生活習慣を改善することで予防ができる疾患であり、早めにリスクを知り予防すること、生活習慣の改善をすることが大切です。

② LAB(変性LDL)とは？

ストレスやタバコなどの影響で発生した体内の活性酸素などによって酸化し、さびついたLDL(悪玉コレステロール)です。研究ではこれまで動脈硬化の原因と言われてきたLDLは動脈硬化の本当の原因ではなく、LABが動脈硬化を引き起こしている主要な原因物質であると考えられています。

③ LOX-1(sLOX-1)とは？

LOX-1とは血管内にあるタンパクの1種で、酸化変性LDLの受け皿です。LOX-1と酸化変性LDLは結合することで動脈硬化を進行してしまうことがわかっております。その内の一部が血管の壁から切り離され、血液中に出てきたものをsLOX-1と呼んでいます。

④ どのくらいの頻度で受診するべきか？

通常健康診断・人間ドックと同じく、年1回の検査をお勧めしております。

⑤ 脳ドックとは何が違うの？

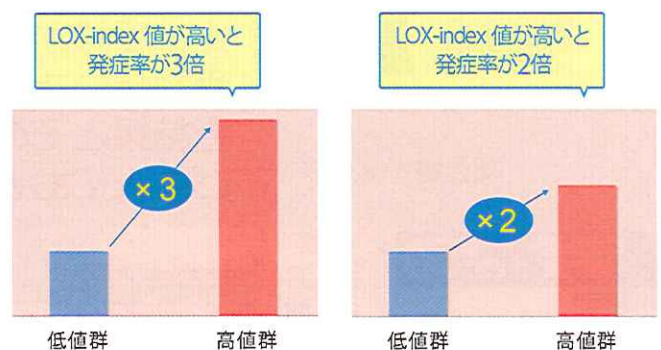
脳ドックは画像検査なので、動脈硬化が進行しないと脳梗塞を見つけられません。LOX-indexでは動脈硬化が進行する前の段階で脳梗塞のリスクを調べることができます

ロックスインデックスが高い方は

動脈硬化が進行すると、脳梗塞・心筋梗塞が将来的に発症するリスクが高まります。酸化変性LDL、LOX-1の増加を促してしまう要因として、生活習慣(喫煙、過食、過度の飲酒等)、ストレス、運動不足等があります。ロックスインデックスが高い方は、今からでも予防対策を始めましょう。

＜脳梗塞発症率との関係＞

＜心筋梗塞発症率との関係＞



引用: Clinical Chemistry 2010; v.56, p.550-558.

※ 妊娠中、出産後、風邪をひかれている場合は、検査数値が高く出る可能性がございます。

※ コレステロールを下げるお薬を服用されている方は、検査数値が低く出る可能性がございます。

※ 食事制限などは無く、午後にご受診頂くことも可能でございます。